

令和2年度第2回（第30回）魚沼市地域公共交通協議会 議事要旨

日 時	令和2年8月28日（金）13:30～15:20
場 所	魚沼市役所 本庁舎 議会会議室
出席委員	21名（うち代理出席4名） ※別紙、出欠名簿のとおり
欠席委員	4名
事務局	4名
オブザーバー	2名
傍聴者	1名
会議次第	1. 開 会 2. 開会あいさつ 3. 協 議 1) 魚沼市地域公共交通計画策定について ・(資料No.1) 魚沼市地域公共交通計画（素案）・・・現況と課題の整理 ・(資料No.2) アンケートの速報結果の整理 2) その他 4. その他 5. 閉 会
会議結果	承認
会議概要	下記のとおり（要点記録）

1. 開 会

2. 開会あいさつ（佐藤会長）

3. 協 議

1) 魚沼市地域公共交通計画策定について

【(資料No.2) アンケートの速報結果の整理について説明（事務局）】

【質疑、意見等】

○佐々木委員（国土交通省北陸信越運輸局）

- ・アンケートのサンプル数が少なく、あまり優位な差が出ていないような問いが多いように感じた。
- ・アンケートを踏まえてどこをどういう風にしたいのかを含めて初めて議論ができると思う。
- ・例えば1番目に実施してもいいものが「1日あたりの運行本数を削減する」が最も多かったが、1日の運行本数を削減するというを前提に話を進めていくのかどうか、そういうところまで踏み込んだうえで初めて議論ができると思う。
- ・結果故にこういう方法があることを示して、地域の皆さんの声を聞かないと、それを政策に活かすことができないのではないかと思います。

・また、それ以外の設問に対する答えを得たときに、それをどう改善に結びつけられるのかストーリー、分析と言うよりもアンケートを取る前の仮説みたいなものが、結果から見えてこなかった。利用する頻度の問いで、「たまに使う」や「ほとんど使わない」と回答した人をどうしていくかということが大事ではないかと思っている。そう言った人たちをどうして行くべきか、若しくは無視するのかについてまで深掘りしていくことが計画を作る時にアンケートが役に立つのかと思う。単なる資料集に終わらせないようすることが大事であると思う。そう言ったところを意識して、具体的な検討の方向性を示して行かなければならないと思う。

○佐藤会長（魚沼市長）

・今ほどの意見で事務局から何かあるか。

○事務局

・守門地域は運行率が低く、乗合タクシーの利用が少ないのは前年度実績からわかってきたことであり、今回アンケートを取ってみて、利用頻度が少ない人にとっては使いづらいということが伺える。

・これから更なる分析をしながら見直しについて次回提案したいと考えている。

○佐藤会長（魚沼市長）

・資料に守門地域の状況が出ているが、例えば本数を減らすにしてもどういう状況のところが一番利用が多いのか、目的はなにか、時間帯の特徴などが分析されていないと次へのより良い公共交通にはならないと思う。

・小出地域に向かう場合も、時間帯や目的がわからないと次へのステップが踏めないと思う。分析をしたうえで、利用者が利用しやすい環境を作ることが大事。

・回答してくださった人に対しても次の審議会の中で示されることをお願いしたい。

○井口委員（魚沼市地域自立支援協議会）

・アンケート問3の中に、どのように変わるともっと利用しやすいかという設問があるが、小出と堀之内地域のアンケートでは、基幹病院へもっと行けるようになるとありがたいという声が非常に多い。

・魚沼市の医療再編時に、私たちも基幹病院への足の確保を訴え、3年間小出病院から基幹病院への直通バスを出してもらったが、その後は、運行していない。現在は、定期バスを利用して通院する形になっているが、魚沼基幹病院は、魚沼市から外れてはいるものの、市境から何百メートル離れているだけであり、制度上の問題はあるかもしれないが、乗合タクシーが水無川の端から基幹病院まで直通で行けるようになればもっと乗合タクシーで基幹病院へ通院できると思う。

・当初の約束では、小出病院の機能を全部基幹病院へ移すという約束だったので、そのためにも基幹病院へ行かなければならない患者は非常に多い。今後、乗合タクシーで行けるよう改善をお願いしたい。

○佐藤会長（魚沼市長）

・今ほどの意見で事務局から何かあるか。

○事務局

・現状では、魚沼市から基幹病院までの乗合タクシーの運行はできない。

・路線バスについては、小出駅前から基幹病院まで荒金経由で 40 分くらいかかり、それを利用してもらっている状況である。

・今後、乗合タクシーが基幹病院まで運行できれば、利用者にとっては喜ばれると思うし、乗り換えなしで行けるのでそれが一番であると思うが、今の制度上の問題や路線バスとの関係もあるため、少しずつ調整をしていく必要がある。

○佐藤会長（魚沼市長）

・路線バスを運行している南越後観光バスの関さんの意見はどうか。

○関委員（南越後観光バス株）

・小出のまち中から基幹病院までを結ぶ路線は、幹線に行くわけではなく国道 291 号経由で約 40 分かかり、アクセス性が悪い。

・今後、幹線を走る系統の浦佐での分割、基幹病院に乗り入れる系統の話があり、生活環境課さんと協議を行っている状況である。今後も慎重に協議していく。

○佐藤会長（魚沼市長）

・浦佐バイパスが令和 3 年度中に一部開通するので、それも含めて路線の変更を考えていかないといけないと思う。

○樵沢委員（入広瀬コミュニティ協議会）

・アンケートが答えづらく、お年寄りが答えてくれるか懸念していた。

・小出や堀之内では、選択肢に魚沼基幹病院まで行けることが書かれているが、守門と入広瀬は基幹病院について触れられていない。代わりに運行時刻の変更について自宅から市街地という選択肢があるが、市街地がどこなのかよくわからず、そのため回答が低くなったと思う。

・入広瀬から基幹病院に行くには、コミュニティバスでバス停や駅まで行き、そこで乗り換えて小出などに出て、そこから乗合タクシーや循環バスなどに乗っていくが、果たしてそれらが想定されたアンケートだったのか。

○佐藤会長（魚沼市長）

・設問項目が地域によって異なっている。その理由は何か。

○事務局

・小出市街地周辺地域と守門・入広瀬地域で設問を分けたのは、地域の特性の違いによるものである。

・基幹病院へ便利に行けるようになるのが一番だとは思いますが、現実的に可能かどうか考えると直通運行は難しいと考えている。

○佐藤会長（魚沼市長）

・基幹病院へ行くためには何時に接続すれば行けるのかということも考えなくてはならない。直接は行けなくても、どういう時間設定をすれば基幹病院へ行けるということも含めて質問を考える必要がある。

○宮腰副会長（長岡工業高等専門学校）

・網計画を作る際にもアンケートを取っていて、何らかの比較ができる項目もあると思う。基幹病院の話や入広瀬のコミュニティバス化は、前回実行されていなかったと思うので、前回との時間的比較を見たほうがいい。

- ・サンプルが非常に少ないのと同時にバイアスがかかっているようにも見える。
  - ・自由意見にも着目する必要があると思うし、クロス集計できるところは、やって分析する。
  - ・運行事業者にヒアリングを行うが、その際にどのように運行したらいいのか、活かせるような形で集計した方がいい。
- 佐藤会長（魚沼市長）
- ・今ほどの意見で事務局から何かあるか。
- 事務局
- ・先生からご意見をもらいながら進めていきたいと思う。

【(資料No.1) 魚沼市地域公共交通計画(素案)・・・現況と課題の整理について説明(事務局)】

【質疑、意見等】

○佐々木委員（国土交通省北陸信越運輸局）

- ・個別施策を振り返ることも大事だが、個別施策は基本方針や目標を達成するためにやっているのだから、前回計画で描いたことについて、どこが達成できてどこが達成できなかったのかという部分を示した方がいい。前計画の評価に関する部分である。
- ・資料の第3章がどこから導かれているのか気になる。現状から見えてきた課題や、前回の計画で達成できなかった部分を課題として挙げて、それをミックスしたものが課題として上がってくると思うが、資料によると前の議論とつながっていないように見える。
- ・課題のレベル感がバラバラである。
- ・アンケートの自由記述に加えて、実際に出向いて乗車して話しを聞くことで課題が見えてくるもあるので、アンケートのサンプル数が少ない部分は足でカバーすることも考えてもらいたい。
- ・今は計画を作るときなので、はじめは制度的な課題は考えずに、どういうニーズがあるのかを拾ったうえで制度がマッチするのかがどうか当てはめて考えて行くのが必要かと思う。

○佐藤会長（魚沼市長）

- ・今ほどの意見で事務局から何かあるか。

○事務局

- ・第3章については計画の肝なので、分析を進めながら説明できるようにしていく。

○佐藤会長（魚沼市長）

- ・施策をやった、やらないではなく、利用者のためになったのかどうかを検証していかなければならない。
- ・市民の意見で、ルート見直しによってウオロクに乗り入れてくれて助かっている意見をもらっている。しかし、送ってもらえるが、帰りの乗車がウオロクから遠いといった意見もあった。ルートを見直したからよしではなく、利用者の立場になってそれがよくなったのかどうか判定していかないといけない。
- ・計画してみたが、法律上の問題で達成できなかったものについては、それはそれで次

のステップへ踏める。結果として形にならなかったが、取り組んだということであれば判定の状況も違ってくると思う。また、それが課題として挙がると思う。

- ・利用者が利用しやすい環境づくりをし、その中で運行事業者が利益を出せるところは出してもらい、行政もやらないといけないことはやっていくという形にならないといけない。

- ・市民の声を聞くことを忘れずに行っていかなければならない。次の計画にそれが反映されるように事務局から作り上げていってほしいと思う。

- ・地域によって高齢化率の実情が違うので、それに合わせて作り上げていかなければならない。

○宮腰副会長（長岡工業高等専門学校）

- ・第3章以降については、今回出てきたものをベースに組み立てて行くのだと考えているが、わからなかったのは、冬場の方が、利用者が増えるはずなのだが、そういう意見がどこにも見えていない。冬場は異動が一段と難しくなると考えられるので、何らかの形で考慮して欲しい。

○佐藤会長（魚沼市長）

- ・魚沼市地域公共交通計画素案について、意見を含め、原案の修正を行っていくこととしてよろしいか。

【採択】承認

## 2) その他

○関委員（南越後観光バス株）

- ・コロナの影響で売り上げの減少が著しく、回復の見通しも不透明な状況となっている。

- ・幹線を走る路線バスについては、国や県の補助をもらいながら運行しているが、魚沼市に係る路線の平均乗車密度が5人に満たないということで、全額補填を受けられていない状況である。補助を受けても赤字ということで、路線バスの中型・小型化を進めることで経費削減を図っているが、赤字の解消には至っていない。

- ・今までは路線バスが赤字であっても貸切バスの収益があったので埋め合わせて路線の維持ができていたが、今年度は貸切バスが稼働しておらず、赤字の補填ができない。赤字の補填について、魚沼市をはじめとした関係市に相談をしたが、財政的支援は難しいという回答であった。

- ・赤字を放置すれば事業全体が成り立たなくなるので、固定費削減を図るために、また、効率的な運行を図るために一部路線の減便を検討している状況である。

- ・地区代表の皆さんに対しては、路線維持のためのやむを得ない減便であるということをご理解いただくとともに、路線バスを利用してもらうことで路線の維持にご協力をお願いしたい。

○佐藤会長（魚沼市長）

- ・魚沼地域だけではなくて県全体的にそういう状況であると思う。市長会でも課題として取り上げられるよう話しを上げたい。魚沼市だけが取り組むような話しでもないと思うので、沿線自治体のすべてがそうだと思うし、県内のそれぞれのバス路線の運行状

況も同じようになっていると推察しているので、市長会を通じて働きかけをして行きたい。

○佐々木委員（国土交通省北陸信越運輸局）

- ・バス事業者で事業をやめた例が一例あり、国土交通省としても、暮らしの足を守っていかなければならないと考えている。
- ・財政的支援については、国土交通省から支援を行うとともに地方創生臨時交付金等を活用して地域の実情に応じて交通事業者を含む暮らしの足を維持するための制度を創設している。
- ・県・市・沿線自治体が連携して取り組みを進めつつ、交通担当部局においても引き続き地方創生臨時交付金等の活用を検討してもらいたいと思う。

#### 4. その他

○事務局

- ・第3回協議会は、10月12日を予定している。

#### 5. 閉 会

閉会あいさつ（宮腰副会長）

【別紙】

令和2年度第2回(第30回) 魚沼市地域公共交通協議会 出欠名簿

(敬称略)

No.	所 属 等	氏 名	代理出席等	備考	
1	魚沼市長	佐 藤 雅 一	○	会 長	
2	東日本旅客鉄道株式会社	浦佐駅長	山 崎 明 彦	欠	
3	南越後観光バス株式会社		関 正 太	○	
4	魚沼市タクシー協会	会長	小 島 由紀子	○	
5	ひかり交通株式会社	代表取締役	渡 辺 恵 介	代理：山本 学	
6	入広瀬コミュニティ協議会	会長	柊 沢 一 彦	○	
7	国土交通省北陸地方整備局 長岡国道事務所 計画課	課長	長 谷 川 孝 志	欠	
8	新潟県魚沼地域振興局地域整備部	副部長	宮 嶋 孝 吉	代理：櫻木 大輔	
9	魚沼市産業経済部	副部長	星 政 晴	○	監査員
10	新潟県小出警察署	署長	松 川 寛 治	代理：丸山 耕二	
11	堀之内連合区長会	会長	波 方 稔	○	監査員
12	小出四日町区連合自治会	会長	磯 部 三 千 夫	○	
13	湯之谷地区自治会連絡協議会	会長	内 田 一	○	
14	広神連合自治会	会長	青 山 春 彦	○	
15	守門地区嘱託員会	会長	佐 藤 健	○	
16	入広瀬区長会	代表	浅 井 作 松	○	
17	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科	教授	宮 腰 和 弘	○	副会長
18	国土交通省北陸信越運輸局交通政策部 交通企画課	課長	佐々木 凜太郎	○	
19	国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局	首席運輸企 画専門官	大 田 尊 博	欠	
20	新潟県魚沼地域振興局企画振興部 地域振興課	課長	貝 瀬 明	○	
21	新潟県立小出高等学校	校長	梶 良 成	○	
22	魚沼市老人クラブ連合会	会長	佐 藤 喜 郎	欠	
23	魚沼市地域自立支援協議会	会長	井 口 正 博	○	
24	日本労働組合総連合会新潟県連合会 中越地域協議会	議長	矢 島 良 彦	代理：加藤 正	
25	魚沼市市民福祉部介護福祉課	課長	戸 田 千 穂 子	○	
26	魚沼市市民福祉部	部長	桑 原 昇	○	
27	魚沼市市民福祉部生活環境課	課長	山 内 勝	○	事務局長
28	” 交通対策係	係長	関 祐 樹	○	事務局
29	”	主任	井 口 貴 行	欠	”

職 名 等	氏 名
エヌシーイー株式会社 地域マネジメント部 計画グループ	次長 佐 藤 雅 志
エヌシーイー株式会社 地域マネジメント部 計画グループ	長谷川 圭輔